

# 2023年度 校内研究全体計画

伊万里市立松浦小学校

## 1 研究主題

自分の考えをもち、協働的に学ぶ児童の育成  
～「つかむ段階」で問題場面のイメージを促す算数科の授業作り～

## 2 主題設定の理由

学習指導要領では、「学びに向かう人間性」「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」の3つの資質・能力を育成することが重視されており、そのために「主体的・対話的な深い学び」になっているかという視点から授業改善を目指している。

本校は、緑豊かな自然に囲まれた全校児童 99 人の小規模校である。穏やかで素直な児童が多く、学習にも真面目に取り組んでいる。一方で、自分の考えを伝えることを苦手としており、人前で発表するときも声が小さかったり自分の思いをなかなか話せなかったりする児童も多かった。4年前より算数科の指導の研究を始め、最初の2年間は「主体的に学びに向かう」ために自分で対話の学習スタイルを選択する研究を行った。後の2年間は「深い学びへ向かう」ために教師側が対話の方法を児童の実態や単元の内容に合わせて選択する研究を通して対話を取り入れた授業作りに取り組んできた。対話活動を継続してきたことで、自分の意見を伝えようとする児童が増え、少しずつ話すことに抵抗をなくすことができた。しかし、以前に比べて話すことができるようになってきたものの、自分の考えをもてないまま対話へ向かう児童が多数見られ、話せなかったり対話の中身が深まっていなかったりすることが多い。普段の授業の様子や学力テストの結果からも文章を読んだ後に自分で問題場면을イメージできないまま自力解決に向かい、自分の考えをもてないまま対話に向かっている児童が多いと考えられる。

そこで、本年度は、引き続き、考えを伝え合う対話活動を取り入れながら、「つかむ段階」で問題場面をイメージできる手立てを探っていききたい。問題場面をイメージすることで自力解決の段階で自分の考えをもてるようにしていく。最後まで答えが出ていなくても自分の考えをもつことで、主体的に対話に向かい、協働的な対話活動を通して自己の学びを深めていく児童育成を目指したい。問題場面をイメージできているという姿は、問題文を読み取ったり必要な情報を選択したりして、自分なりに場面を把握することができることである。問題文を言い換えたり、図に表したりしながら場面をつかめるようにしていく。問題場面をイメージすることで、どのような解法で解き進めていくのか見通しを立て、自力解決に結びつくようにしていきたい。自力解決で自分の考えをもつことで、対話の中で友達に「話せた」という実感をもつことができたり、友達との関わりの中で「分かった、できた」という達成感を味わったりして、算数の楽しさを感じられる授業作りを行っていききたい。

### 3 研究の目標

問題解決のために、「つかむ段階」で問題場면을きちんとイメージし、自力解決で自分の考えをもって対話に向かうことで、協働的に学びを深めることができる算数科学習の在り方を探る。

### 4 研究の仮説

算数科の学習において、「つかむ段階」で児童が問題場면을イメージできるように手立てをとることで自力解決をたすけ、対話や全体での学びなど協働的に学ぶ児童が育つであろう。

### 5 研究の内容と方法

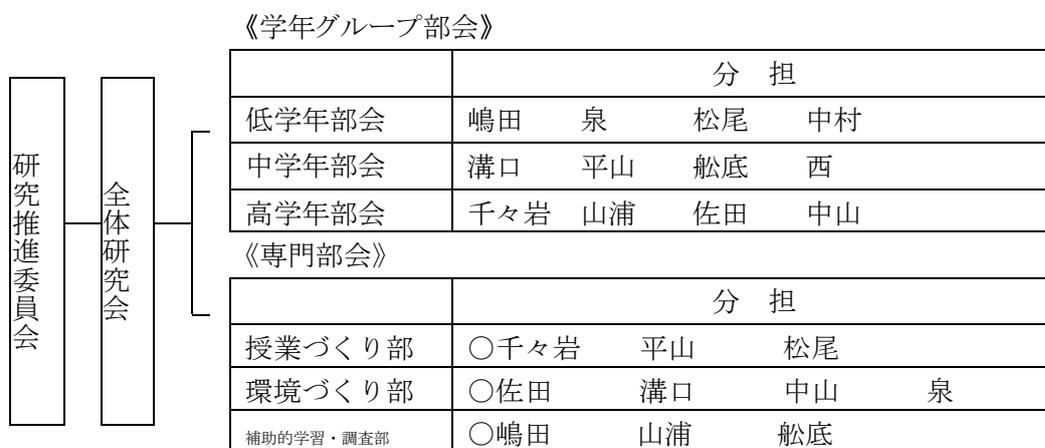
#### (1) 協働的に学ぶ算数科の指導方法の研究

- 授業の実践  
教材、資料、問題提示、発問、指示、評価、支援策、板書、ノート指導
- 理論研究  
講師招聘、先行理論研究
- 指導力向上のための研修  
ワークショップ形式の授業研究会、研究授業  
学習教材の工夫、ICT活用
- 自分の考えを明確にもたせるための学習過程の工夫  
問題提示、めあて、見通し、自力解決、学び合い、まとめ、ふり返り
- ◎ 解決の必然性が感じられる課題設定
  - ・ 日常の事象から見出した算数の問題
  - ・ 算数の学習場面から見出した算数の問題
- ◎ 問題提示の仕方の工夫
  - ・ 既習との関連を感じさせる
  - ・ 問題文の情報量を工夫する（多くの情報から選択させる 不足した情報を補うなど）
  - ・ 予想とのズレを生み出す提示
  - ・ ICTの活用（タブレット、書画カメラ、写真、スライドなど）
  - ・ 具体物を用いる
- 問題解決の過程や結果を表現し、伝え合う活動
  - ・ 具体物や図・式・言葉を用いて表現する
- ◎ 発達段階や児童の実態に応じた学び合いの工夫
  - ・ 教師が単元や教材に応じて対話の仕方を選択する  
ペア、グループ対話（3～4人）、近くの人と、自由
- ヒントコーナーの工夫
  - ・ 自己内対話ができるようなヒントコーナーを設ける。
  - ・ 既習事項を確認したり、具体物操作をしたりできるような場を設ける。
- 教師のコーディネート
  - ・ 発言をつなぐ、考えを広げ、深める発問

(2) 授業を支えるための取組

- 基礎学力の育成
  - ・週2回の算数タイム（火・金）、第4週目の金曜日は全校計算の日
- 家庭との連携と生活習慣の改善
  - 「きらきらかあど」の実施、自学ノートの取組（4年生以上）、家読の推進
- 環境の整備
  - 児童のノートや算数学習用語等の掲示、「算数コーナー」の設置・補修
- 他教科との関連
- 言語活動の広がり
  - とっくん、漢字検定、漢字タイム
- お互いを認め合える学級の風土づくり

6 研究の組織とその内容



- 専門部・・・○授業づくり部（実践、実践資料、先行研究資料、児童ノートの紹介）  
 ○環境づくり部（算数コーナー、算数科教具の補修）  
 ○補助的学習・調査部（算数アンケート（6月・12月）の内容検討、集計、分析等、算数タイムの充実）

※研究推進委員会：校長（中村）、教頭（西）、教務（松尾）、研究主任（千々岩）、  
 中学年（溝口）、低学年（嶋田）

- ① 研究推進委員会
  - 研究の基本的な事項の検討、研究テーマの理論の追求と実践方法の研究、企画、立案、研究日程計画、研究推進の円滑な運営
- ② 全体研究会
  - 研究内容・方法等についての検討、授業研究会の実施、授業事後の授業研究会
- ③ 学年グループ部会
  - 研究内容の具体的実践、授業実践における教材研究、児童の実態把握及び情報交換、研究成果の記録と研究資料の提供

④ 専門部会

ア 授業づくり部

算数科の授業づくりの共通理解、算数科に関する資料の収集（実践資料、先行研究資料、他校の研究発表資料・情報の共有）、児童のノート紹介

イ 環境づくり部

算数コーナーの設置・見直し・補修、算数科教具の補修

ウ 補助的学習・調査部

算数科の意識調査の実施及び分析（全学年対象 6 月と 12 月）

算数タイムの準備

7 今年度の計画

	月	日	曜	事項	研究内容	調査
一学期	4	7	水	研究推進委員会	研究の方向性、研究主題	算数アンケート
		26	水	全体研究会	研究主題、研究の組織等提案	
	6	14	水	専門部会	各専門部での年間の取り組みについて	
		28	水	全体研究会 指導案作成	専門部報告	
	7	12	水	授業研究会	全体研①	
夏季休業	8	2	水	全体研究会	講師招聘による理論研究	
	8	23	水	専門部会・グループ研	専門部の活動 2学期の取り組みについて	
二学期	9	6	水	授業研究会	全体研②	漢字検定  算数アンケート
	10	4	水	グループ研	指導案検討	
				授業研究会	グループ研	
				授業研究会	グループ研	
	11	1	水	グループ研	指導案検討	
				授業研究会	グループ研	
	11	29	水	授業研究会	全体研③	
冬季			水	個人	今年度のまとめ 作成	
三学期	2	7	水	専門部会	専門部まとめ	CRT 漢字検定
	2	14	水	個人研修	まとめ冊子原稿作成 職員向けアンケート	
	2	28	水	全体研究会	今年度のまとめ	